

計画だけで終わらせない。「即実行」のスピード感で挑む弘前市政のいま

谷川政人弘前市長に聞く、就任半年の歩みと未来へのビジョン

就任からの半年、最優先したのは「スピード感と対話」

― 4月の市長就任から約半年を振り返ってみていかがでしょうか。

谷川 4月16日に市長に就任して以来、「計画だけで終わらせない、ただちに実行する」という強い決意のもと、文字通り走り抜けてきました。就任翌日の17日には危機管理体制の構築に向けた部長級担当理事を任命するなど、何よりもスピード感を重視して体制を整えました。5月には新しく清野浩輝副市長と森尚生教育長を迎え、急増するクマ出没対策としては「鳥獣対策推進室」を即座に立ち上げました。6月の市議会定例会では、私が最も重視してきた子どもたちへの投資として、県施策と連動した「保育料の完全無償化」や副食費・給食費の支援、さらに物価高騰から暮らしを守る「上下水道料金の軽減」などを盛り込んだ補正予算を速やかに議決いただき、実行に移しています。

―夏以降も組織の強化や市民との対話を重ねてくれました。

谷川 7月には、地震や激甚化する気候変動による大雨、雪対策、野生鳥獣被害などの危機事案に対し、部局横断的な連携や迅速な情報収集を行う「危機管理局」を設置しました。同時に、市民の皆さまの声に直接耳を傾け、地域の課題解決に向けて語り合う対話集会「花いかだトーク」も開催しています。市民とともに弘前の新しい未来を築くため、今後も市

政運営における「対話」を何より大切にしています。さらに9月には、前例にとられない新たな取り組みを含む12の施策を取りまとめ「今冬の雪対策」として発表しました。これまで現場に足を運び、市民の皆さまと重ねてきた「対話」こそが、私のすべての政策の原動力となっています。

最大の危機は「人口減少」。生活基盤をアップデートし、活力を創出する

―弘前市が直面している現在の状況と、大きな課題についてどのように捉えていらっしゃいますか。

谷川 最大の課題は、少子高齢化の加速によって、予測を上回るスピードで人口減少が進んでいることです。これにより商業、農業、観光業などさまざまな産業の衰退を招き、インフラや地域コミュニティの維持が困難になるなど、地域存続そのものが揺らいでいます。この危機を乗り越えるため、弘前の活力をしっかりと創出し、教育と子育て環境を充実させ、生活の基盤をアップデートして安心のネットワークを構築していかなければなりません。その実現に向けても、市民との対話や近隣市町村との連携を大事にしています。

農業・商業・インフラ―未来への重点分野に取り組む

―今後取り組むべき重点分野についてお聞かせください。

谷川 まず、弘前農業の根幹である150年の歴史を持つ「日本一のりんご産業」と一次産業

を何としても守り抜きます。労働力の確保と持続可能な生産基盤を再構築し、青森県が掲げるりんご生産量40万tを目指してまいります。次に、「商業都市弘前」の復興です。郊外化や大型店舗の相次ぐ閉店により失われたまちなかの活力を取り戻すため、従来のまちづくりの遅れを取り戻し、不均一課税の導入など投資しやすい環境づくりを力強く推進します。そして、近年の大雪への備えです。緊急時には昼夜を問わず除排雪を行ったり、予防的排雪に取り組むほか、AIを活用した道路状況の監視なども導入していきます。物価高騰の直撃に対しても、上下水道料金の軽減やプレミアム商品券の発行などを実施してきましたが、今後も国の動き等を注視し、必要に応じて機動的に対応してまいります。

―近年、気候変動による大雨など、インフラや防災の重要性も高まっています。

谷川 道路や河川等のインフラは、安心・安全の確保だけでなく、強い地域経済の構築を下支える重要な基盤です。津軽地方では、2022年8月に県初の線状降水帯による大雨を経験しましたが、つい先日にも記録的な大雨に見舞われるなど、東北地方も西日本のような豪雨災害に直面する時代になりました。いつ起きてもおかしくない災害から市民の命と財産を守るため、局地的な短時間豪雨にも対応できる予防的な治水対策や、冬季の道路の防災性向上など、防災・減災対策をより一層強化します。市としての取り組みはもちろん、岩木川の河川改修や国道7号鶴ヶ坂防災の整備促進

4月16日の市長就任以来、「計画だけで終わらせない、ただちに実行する」という強い決意のもと、圧倒的なスピード感で弘前市政を引っ張る谷川政人市長。就任から約半年の歩みを振り返るとともに、人口減少という最大の危機にいかに対応するか、これからの重点施策や街づくりへの熱い思いを聞いた。

―近隣市町村と連携し、国や県とも一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

追手門広場の再編で、エリア全体の価値を飛躍的に高める

―7月末には、追手門広場が「新たな県立博物館」の整備候補地に選定されました。今後の再編に向けた意気込みを教えてください。

谷川 弘前公園近くの追手門広場は、1990年に市制施行100周年を迎えた旧弘前市の記念すべき事業の象徴として生まれた場所です。広場内には観光館など5つの市施設に加え、旧弘前市立図書館や旧東奥義塾外人教師館といった県重宝の文化財もあり、教育・文化・観光の拠点として長く愛されてきました。一方で、文化財を除く5施設は築30年以上が経過し、老朽化が進んでおり、大規模な改修や更新費用の確保が課題となっていました。こうした中での「新たな県立博物館」の整備候補地選定です。今年度中には「追手門広場整

備方針」を策定する予定で進めています。ここに新たな県立博物館が整備されれば、国内外からの観光客の満足度が向上するだけでなく、エリア全体の価値が飛躍的に高まるものと確信しています。これまで以上に市民に愛され、次世代へ誇れる拠点となるよう、全力で取り組んでまいります。

市民との「対話」を原動力に、ひたすら「一生懸命」走り続ける

―最後に、市長ご自身の経歴や、大切にされている信条についてお聞かせください。

谷川 これまで国会議員秘書をはじめ、弘前市議会議員、青森県議会議員をそれぞれ3期務めてまいりました。その中で社会の多岐にわたる課題に接してきましたが、やはり原点にあるのは「まずは真摯に市民の声に耳を傾け、対話をしながら解決の糸口をみつけていくことの重要性」です。ちなみに、私の趣味は釣りりで、信条は「一生懸命」です。これからもぶれ



谷川 政人 弘前市長
生年月日／1969年11月21日
最終学歴／道都大学 社会福祉部科卒業
趣味／釣り

年月	職歴
平成4年4月	建設資材商社の民間企業勤務
平成10年3月	故 木村太郎 元衆議院議員 秘書
平成15年5月 ～平成23年5月	弘前市議会議員(3期)
平成27年4月 ～令和5年4月	青森県議会議員(3期)
令和8年4月	弘前市長に就任

ることなく、市民の皆さまとともに弘前の新しい未来を築くために、全身全霊で走り抜けてまいります。

信頼と共に80年 特定建設業



株式会社 西村組

代表取締役 太田 浩幸
代表取締役副社長 竹内 昭三

弘前市大字田町3丁目2-1 TEL.0172(32)2468
https://www.nishimuragumi.jp/

(株)小松塗装工業

代表取締役 小松 日出高

〒036-8316 弘前市大字石渡4丁目11-2
TEL.0172(37)2533 FAX.0172(33)6315